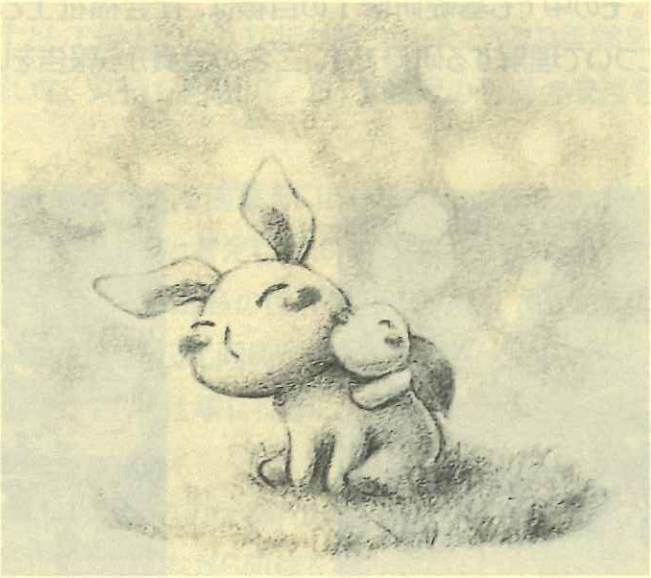
NO.108 号　発行・編集：（一社）富山県社会福祉士会
〒939-0341　富山県射水市三ケ 579 富山福祉短期大学 1 号館 1F 内
Tel/Fax　0766-55-5572　toyama.csw@gmail.com
2022 年　11 月発行

鰤おこし



ソーシャルワークの機能

会長　清水 剛志

コロナ禍の渦中で 3 年ぶりに開催する研修会や会議においても対面で行うことが増えてきました。前回も同様の書き出しをしました。なかなかスッキリとしない状況が続いています。先日、久しぶりの対面の研修会で「地域共生社会の構築に求められるソーシャルワークの機能」について様々な職域のソーシャルワーカーとソーシャルワークを学ぶ学生さんたちと一緒に意見を交わしました。ソーシャルワークの現場で従事しているそれぞれの立場での専門職の見解と、現在進行形で学んでいる学生さんの柔軟な意見を拝聴することができました。研修では、実際に相手との「間」を感じられるやりとりができて対面の良さを改めて感じることができました。

研修では、地域共生社会の構築にソーシャルワークの機能の実施が求められ、顕在化している課題以外の生活課題にも支援をする事例検討を行いました。様々なソーシャルワーカーがそれぞれの職域に於いて専門的な支援をしていますが、支援者の専門の分野を超えた生活課題を複合的に抱えている対象者が地域社会には生活されています。ソーシャルワークは専門分野に限定された支援を行うことではないとわかっていますが、日々の業務においては専門分野からのアプローチになると思います。連携・協働し専門分

野同士をつなぎ合わせることが重要だと感じました。ソーシャルワークの職能団体によるつながりをつくることも有意義だと思いますが、地域社会には「ソーシャルワークの機能を発揮するつなぐしくみ」を構築することも大切であると感じました。富山県社会福祉士会もその一助となることができたらと思います。

研修報告（基礎研修Ⅰ）

基礎研修は社会福祉士として共通に必要な価値・知識・技術を学び、社会福祉士の専門性の基礎を身につける研修です。その中でも基礎研修Ⅰの目標は、社会福祉士としての自覚を促すとともに、実践の基礎となる専門性について理解する研修です。二名の会員から報告をいただきました。

基礎研修Ⅰ集合研修に参加して

つつじ苑　中川 伸治

10月8日、基礎研修Ⅰの集合研修を受講してきました。私は、第22回社会福祉士国家試験に合格し、約12年が経過したところで基礎を学びなおして自身を振り返ることが必要だと思い基礎研修Ⅰを受講しました。

新型コロナウイルスの流行によりオンライン研修が主流となる中、集合して研修を行われることは、とてもありがたく、対面して講義を聴きグループワークでの意見交換は、とても新鮮でした。

～社会福祉士の専門性とは～のグループワークでは、社会福祉士が活動している職種と業務内容を書き出しそれを分類し整理を行いました。分類した業務に必要な知識や技術について、またそれらの業務を専門的に実践する力を高めて行くためには、どのような研修を行っていけばいいのかを話し合いました。ひとつひとつ確認しながらの作業で言語化することや可視化することで新たな知識や他分野の業務の学びや発見をすることができました。

今回の集合研修では他分野で活躍しておられる社会福祉士とも交流を深めることができ、とても中身の濃い研修となりました。

社会福祉士基礎研修Ⅰの受講にあたって

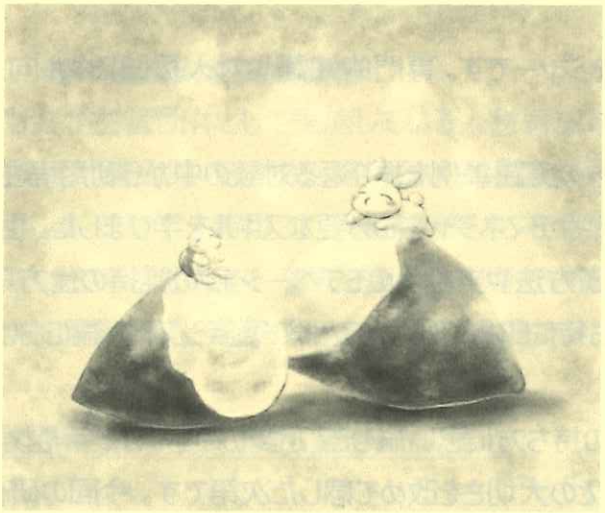
西田地方保育園　門脇　奈津子

毎日わくわくしながら保育士として働きだして 1 年が経ちました。かなり年齢を重ねてからの新人保育士ですが、自身の目で看て、聴いて、気持ちを感じて、０，１歳児の心身の成長を学ぶたびに心が震える瞬間が多々あります。

クラスの先輩先生方がよく「保育観」と言う言葉を口にされます。試験に合格して保育士として働くことしか頭になかった、私の保育観は何だろう？と考えてしまいました。

と同時に長年仕事をしてきた、障碍・高齢者の世界。私は今まで、どんな信念をもって支援をしてきたのだろう。これまで歩んできた道のりを振り返ると同時に、もう一度、社会福祉士の専門性について勉強をしてみよう。また、県内で社会福祉士として仕事に従事している方々とつながりながら、語り合いたいなと思ったことが受講のきっかけです。

先日の初回研修では、同じグループの方の仕事への思いを伺うたびに胸が熱くなりました。今後も繋がりを大切にしながら、仕事と同様にわくわくしながら研修を積み重ねていきたいなと感じています。



2022年度ソーシャルワーク研修報告

第１回 「相談援助職の記録の書方」

ハッピーライフ株式会社 赤れんが 細川 真理子

私は記録を適切に書くことの難しさを感じていました。今回の研修では「伝わる記録のポイント」を学べること、そして繰り返し読んでいる本の著者である、八木亜希子先生のお話を生で聞くことができるということで、とても楽しみにしていました。

目指す記録とは「家電のマニュアル」のように、誰が読んでも、そうとしか読めないように、主観は排除し、淡々と書いた物だというお話が、印象に残りました。SOAPを使った記録の書き方では、P（ゴール、対応）に対し、A（アセスメント、判断）の根拠を説明できることが専門職としての価値であることを学びました。また、グループワークを通し、長年記録を書き続けている先輩方であっても、日々研鑽を積まれていることを知り、その姿勢を見習いたいと思いました。記録はとても大切なものだと再認識する機会になりました。開示できる内容、読んでもらえる記録を書けるように学び続けたいと思います。ありがとうございました。

第２回 「実践を活かすソーシャルワーク技術」

ひだまり居宅介護支援事業所 篭 要吏子

私は居宅介護支援事業所に所属しているケアマネジャーです。専門的知識や対人援助スキル向上のため、様々な研修に参加しています。

『実践に活かすソーシャルワーク技術』では、先生方の実践事例を振り返る対談の中から利用者主体を実現する「視点」や「技術」として、ソーシャルワーカーやケアマネジャーに必要なスキルを学びました。相手を理解しようとする姿勢、攻撃性が高い人へのアプローチ方法や支援へのモチベーションの維持の仕方等、日々の業務に直結するとてもためになる講義の中でも特に印象に残ったことは、家族システム論における問題の考え方です。

昨今難しい事例が増えており、関わり方や気持ちの持ち方に思い悩むことが多いのですが、新たな知識を習得できたことで心の霧が晴れ、研修に参加することの大切さを改めて感じた次第です。今回の研修で学んだことを糧に、これからも日々精進し、成長していきたいと思います。ありがとうございました。

第３回「重層的支援体制整備とソーシャルワーカーの新たな役割」

社会福祉法人富山県社会福祉協議会　村上 環奈

恥ずかしながら、久しぶりの研修参加だった。受講後の率直な感想は、「難しかった！でも、怠け心に喝を入れて参加してよかった！」。

昨年度、自組織の５か年計画（県社協強化発展計画）を策定したこともあり、今後の地域福祉推進の方向性を考える上で、重層的支援体制整備事業についても自分なりに資料を読み込んだつもりでいたが、これほどまで真剣に要綱に向き合い、理解を深めたのは初めての経験だった。

講義は３部構成で、１部では実施要綱の理解、２部では重層的支援体制整備の構造、３部では評価の視点について学びを深めた。地域共生社会の実現に向け、包括的な支援体制を構築するためにソーシャルワーカーが果たすべき役割は、相談支援、参加支援、地域づくりを一体的に実施するための体制整備をマネジメントすることとのお話だった。これを、自身の業務や立場と結びつけて具体的にイメージすることが難しかったが、個別支援と地域づくりへの支援を、多職種連携のもと一体的に展開するコミュニティソーシャルワークと関連づけながら拝聴した。

重層的支援体制整備事業は、まさに地域福祉強化の流れである。地域福祉の推進に携わる者のひとりとして、平野先生が言われた「ワクワク感」を忘れず、今回学んだことを今後の活動に役立てていきたい。

ぱあとなあ関係事業　実施状況

１．成年後見人材育成研修

当会が主管団体として実施している人材育成研修（日本社会福祉士会の委託認証研修）ですが、今年度は富山県・石川県・福井県から計 33 名の受講があり、11 月末時点で 3 日目まで修了しました（全 4 日間）。新型コロナ感染対策として全日程をオンラインで開催しています。福祉現場では聞き慣れない法律用語も多く、また、後見人の責任の重さに戸惑う方も多いと思いますが、その分やりがいもあります。受講仲間とともに最後まで乗り切ってもらえたらと思います。受講者アンケートを一部紹介します。

「後見事務の実際（事例報告）」の感想

・ケース別で成年後見を辞めたことや困難な事例で、初めからこういうことがある事も分かったので良かった。
・事例を分かりやすく、ポイントを押さえて伝えてくださりました。ご苦労された点も伝わり、関係機関に相談されたり、関係者と連携を図られたり、支援されていた様子が伝わりました。

・とても勉強になりました。難しいケースばかりでしたが、成年後見人の仕事をしていてやりがいを感じる点も含めてお話をしてくださったので、良かったと思いました。
・実際の成年後見の活動について事例をご提示下さってありがとうございました。
いずれも想像していた以上に大変な事例で、驚きました。果たして自分が後見人だったらどうしただろうか、務まるだろうかと聞きながら考えていました。正直なところショックでもあり少し怖くなりました。しかし、誰かが引き受けなければ、との言葉にはっとさせられました。問題を抱えた人に寄り添うと言うことは覚悟がいることですが誰かが担わなくてはならない。先輩方の様には、いかないと思いますが専門職としての自覚と覚悟を持ち臨みたいと思います。
・事例を聞くと、改めて利用者ひとりひとりの人生の重みとそれに寄り添い仕事をすることの責任を感じる。一方で、仕事として客観的な視点でチームの一員として活動し、自分のメンタルヘルスを管理していくことが大切と感じた。
・このような事例を学ぶことが初めてでした。成年後見人の実務内容、課題となることがとてもわかりやすく伝わりました。
・取り上げていただいた事例は稀なケースとはいえ身が引き締まる思いです。
・後見事務の仕事って、大変過ぎます。
・実践の報告であったので大変共感を持って聞くことが出来、今後の励みになりました。
・後見人の仕事の大変さがわかるとともに、でも、頑張ってみたいと前向きになれた。
・後見の仕事の大変さが良くわかった。
・中途半端な気持ちではできないと思った。
・どれだけ専門性をもって業務にあたっても、後見業務がいかに大変であるかを聞かせていただきました。被後見人の身上監護や財産管理等、専門的な知識や学びはもちろん、深くその人の人生に関わっていく覚悟が必要だと改めて教えていただきました。本当に自分が後見業務に携わっていけるのか、不安も感じています。
・自分がもし後見を受任するようなことがあればお二方のように真摯に向き合いたいと思いました。

2．講師派遣

呉西地区成年後見センター市民後見人養成講座や、各地域包括支援センターなどが開催する出前講座へ講師を派遣しています。成年後見制度の基本的なことや実務内容、意思決定支援等について講師の体験も踏まえて話をしています。地域における権利擁護体制の構築に向けて今後も取り組んでいきたいと思います。

会員投稿 「私のおススメの本」

ケアサポートうてな　堀田 恵利子

もともと活字を読むことが苦手で、年を重ね老眼になりますます読書から遠ざかっていた。現在、基礎研修Ⅲを受講しているが、ワークブックや基礎研修テキストを読むことも億劫になっている。

しかし、最近、この本なら読んでみようと思えるものに出会えた。本のタイトルは「老いてこそデジタルを。若宮正子」 若宮さんは最近、テレビコマーシャル（AC ジャパン）でも有名な方で、８０歳を過ぎてから iPhone のゲームアプリ hinadann を開発された方だ。「とにかくバッターボックスに立ってバットを振ってみようと思ったんです。そしたら当たっちゃったんですよ」のセリフに聞き覚えのある方もいるのではないか？そして、定年後の６０歳過ぎから９０歳代の実母を自宅で１０年間ほど介護された経験をお持ちの方である。その間に 50 歳代後半で購入されたパソコンを使い、いろいろな知識を得られて、現在もなお様々な場所で活躍しておられるスーパーウーマンだ。

では何故、この本のどんなところが SW の自分に役立つのか？ひとつ目は、ICT～ＬＩＮＥなどのスマホの操作まで幅広く、そしてわかりやすく説明されていて、読解力が乏しい私でも、難しいことが頭にスーッと入って来る点。

ふたつ目は、人は興味関心があれば、いくつからでも輝くことができるときづかされた点。５０歳代後半となり、体力気力が低下気味で膨大な仕事量で押しつぶされそうになる毎日がしんどい時もあるが、最新機器をうまく活用し業務の効率化を図れる良い糸口を見つけることができたと、この本を手に取って感じることができた。

機会があれば、一度手に取ってほしい私のおススメの１冊である。

事務局からのお知らせ

事務局へのお問い合わせは、E-mail またはお電話でお願いいたします。

（水・土日・祝祭日を除いた　10：00～15：00）

E-mail：　toyama.csw@gmail.com

Tel/Fax：0766-55-5572

会員数　５０５名（令和４年１０月３１日現在）研修を受け自己研鑽に努めましょう。

編集後記

鰤おこし 108 号をお届けいたします。

前年度好評だったオンライン忘年会ですが、今年度はオンライン新年会として開催いたします。

顔の見える新年会です。同封のチラシをご覧のうえ、ぜひご参加下さい。

「ウィズコロナ」の日常が変わろうとしています。新型コロナ感染症が猛威を振るい始めました。

私たちはコロナ禍に翻弄され、生活、仕事にも多大な影響を受けています。どうかご自愛ください。

108 号印刷・発送はワークハウス連帯さん、イラストは chiaki さんです。ありがとうございます。（永野）

Chiaki

chiaki